

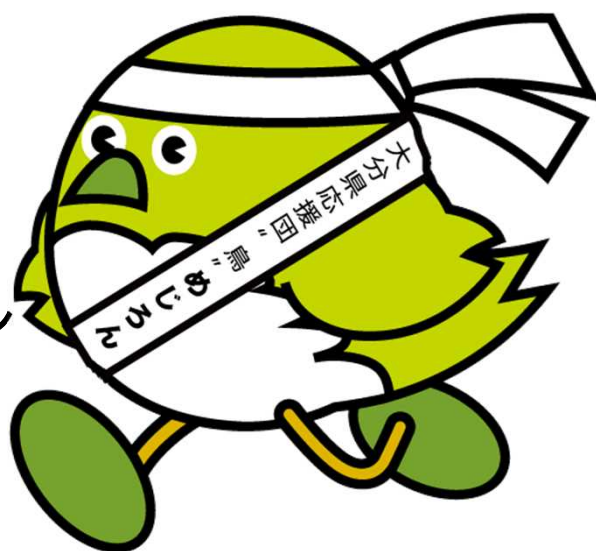
大分県

OITA Prefecture

2019

目次

- 1 大分県のすがた
- 2 大分県の経済・産業
- 3 大分県庁の組織と業務
- 4 政策の仕組み
- 5 安心・活力・発展プラン2015
- 6 大分県行財政改革アクションプラン
- 7 令和元年度大分県予算
- 8 令和元年度の主な取組
- 9 大分県管内図、県のシンボル



日本一の

おんせん県おおいた



みりよく

味力も満載

(1) 大分県の位置

大分県は「アジアの玄関口」である九州の北東部に位置し、北側は周防灘に、東側は伊予灘、豊後水道に面しています。



(2) 大分県の市町村

大分県は18市町村(14市3町1村)から構成されています(平成の大合併前は58市町村(11市36町11村)でした。)

総人口は約114.0万人(R1.7.1現在)であり、人口が最も多い市町村は県庁所在地である大分市です。総面積は約6,341km²であり、面積が最も広い市町村は佐伯市です(九州一)。

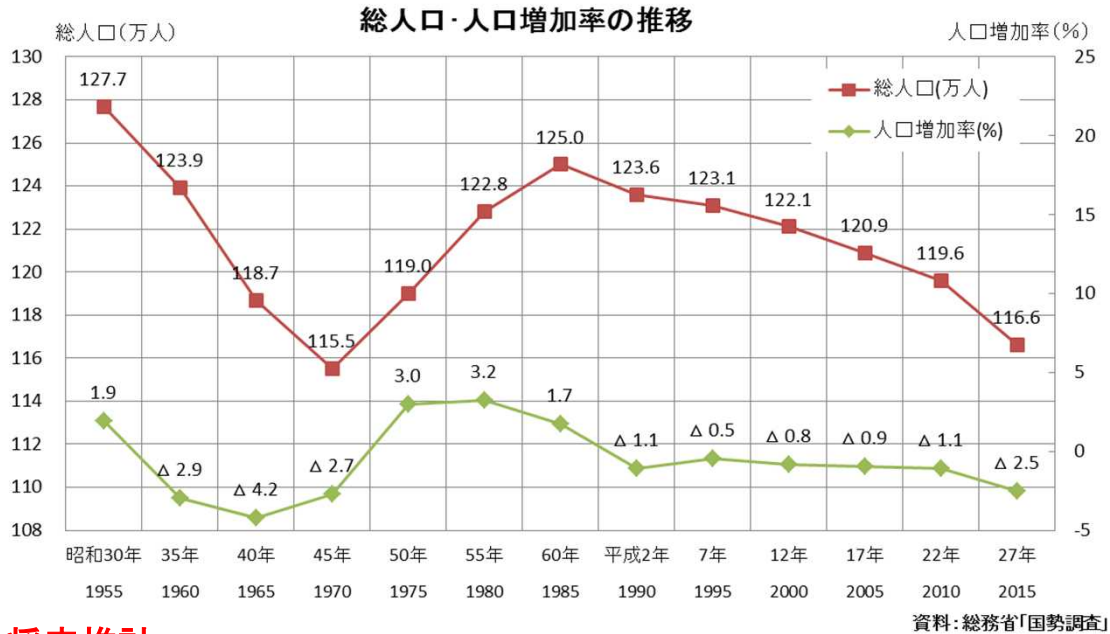
区 分	面積 H30.10.1 (km ²)	世帯数 R1.7.1 (世帯)	人口 R1.7.1 (人)		
			総 数	男	女
大分県	6,340.73	495,049	1,135,786	538,746	597,040
大分市	502.39	211,439	477,721	229,702	248,019
別府市	125.34	55,447	118,535	53,713	64,822
中津市	491.53	37,266	82,917	40,178	42,739
日田市	666.03	25,439	63,139	29,869	33,270
佐伯市	903.11	29,445	68,115	31,565	36,550
臼杵市	291.20	14,650	36,694	17,350	19,344
津久見市	79.48	7,142	16,390	7,638	8,752
竹田市	477.53	8,721	20,487	9,513	10,974
豊後高田市	206.24	9,777	22,133	10,501	11,632
杵築市	280.08	12,056	28,592	13,788	14,804
宇佐市	439.05	22,776	54,011	25,407	28,604
豊後大野市	603.14	14,115	34,007	15,765	18,242
由布市	319.32	13,430	33,078	15,618	17,460
国東市	318.10	12,028	26,637	12,639	13,998
姫島村	6.99	851	1,800	850	950
日出町	73.32	11,273	27,934	13,333	14,601
九重町	271.37	3,440	8,916	4,244	4,672
玖珠町	286.51	5,754	14,680	7,073	7,607

資料: 国土地理院、県統計調査課

(3)人口の推移

大分県の人口は、昭和30年の127万7千人をピークに減少を続け、昭和45年には115万5千人にまで落ち込みましたが、その後は増勢に転じ、昭和60年には125万人となりました。

しかしながら、昭和60年を境として、東京一極集中や過疎化の進行等により減少傾向が続いており、平成27年には116万6千人となり、昭和45年以来の大きな減少率となりました。

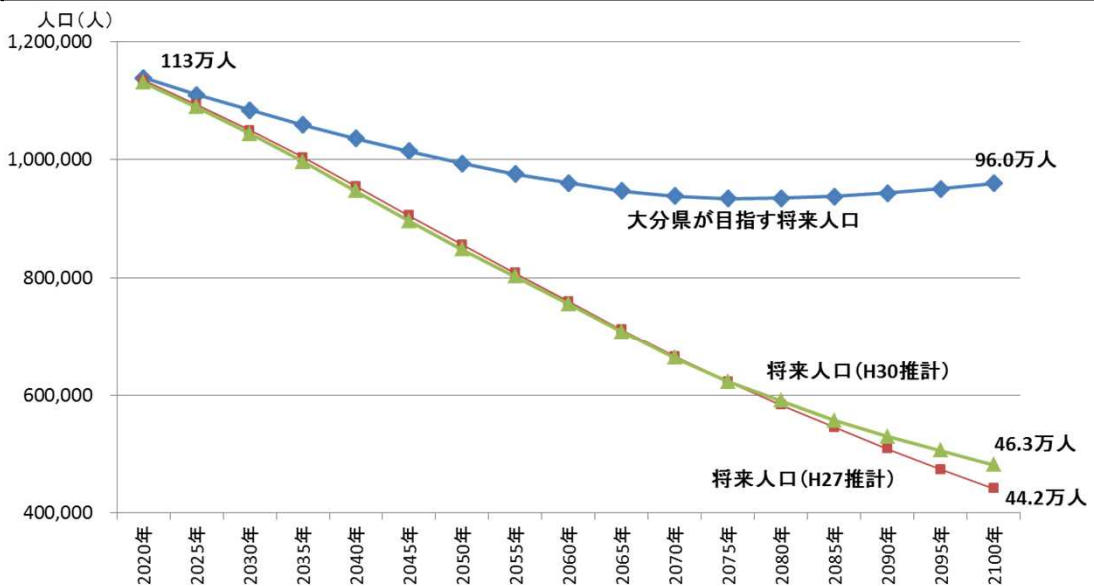


(4)人口の将来推計

大分県の人口は、現状のまま何も対策を講じなければ、今後も減少を続け、2100年には46.3万人となることが推計されています。

しかしながら、自然増、社会増の両面からこれまでの政策に新たな政策を積み重ねていくことにより以下の目標を達成できれば、人口減少カーブは緩やかになり、おおよそ2080年以降は増加に転じさせることが可能であることも示しています。

<大分県が目指す将来人口の実現に向けて>
 自然増: 若い世代の結婚・子育ての希望の実現
 (実現した場合の合計特殊出生率: 2030年に2.0、2040年に2.3程度)
 社会増: 2020年までに社会増減均衡、2025年から社人研推計に1,000人程度上乗せ



・大分県が目指す将来人口: 大分県人口ビジョン(H27策定)
 ・将来人口(H27推計): 国立社会保障・人口問題研究所の公表データ(H25)及び大分県の独自推計(H27)
 ・将来人口(H30推計): 国立社会保障・人口問題研究所の公表データ(H30)及び大分県の独自推計(H30)

(5)大分県の特徴

大分県は、温暖な気候に恵まれ、海や山などの豊かな自然、その中で育まれた新鮮で安全な食材、宇佐神宮や六郷満山、国宝臼杵石仏をはじめとした磨崖仏などの貴重な歴史的文化的遺産など多くの地域資源があります。

また、なんとといっても県内全域に広がる温泉は、日本一の湧出量と温泉数を誇り、地球上にある10種類の泉質のうち8種類を有しています。

さらには、「The・おおいた」ブランドとして、関あじ・関さば、豊後牛などの高級食材をはじめ、かぼすやしいたけなど四季折々の素晴らしい食材も満載です。



別府湾地域
多彩な温泉と遊びの競演

別府・海地獄

日本一の温泉湧出量、源泉数を誇り、バラエティに富んだ温泉が満喫できる別府をはじめ、別府湾沿いに開けたエリア。海を望む水族館やテーマパークなどのレジャーも充実。



宇佐・国東地域
六郷満山と古の文化

宇佐神宮

かつて宇佐神宮を中心とした八幡文化で栄えた宇佐地域と、「六郷満山」と呼ばれる独自の仏教文化が花開いた国東半島を中心とするエリア。磨崖仏や石橋など石造物も豊富。



日田・耶馬地域
緑薫る歴史と景勝の地

一目八景

江戸幕府の直轄地「天領」として栄え、今も当時の町並みと町人文化が残る日田、城下町の風情が息づく中津など、歴史の薫り漂うエリア。深耶馬溪一帯は奇岩奇峰と瀬流が織りなす景勝地。



やまなみ地域
雄大な山々の営み

くじゅう連山

1700m級の山峰が連なるくじゅう連山をはじめ、祖母・傾山系、由布岳など、雄大な山々に囲まれたエリア。四季折々に色合いを変える大自然の山歩きや高原散策、山間のいで湯を楽しめる癒やしのスポット。



奥豊後地域
名水の潤いと歴史の道

白水ダム

清流・大野川の中・上流域に開けたエリアで、豊かな自然が清らかな水を育む名水のふるさと。「九州の小京都」竹田は、岡城趾など、当時の隆盛がしのばれる城下町。



日豊海岸地域
リアス式海岸と海の幸

保戸島

日豊海岸国定公園に指定された美しいリアス式海岸が続く、大分県南エリア。旧藩時代のたたずまいが残る臼杵や佐伯など、海辺の城下町は情緒たっぷり。関あじ・関さばをはじめ、豊後水道で揚がる海の幸が絶品。

(6) 大分県の日本一

天然自然が豊かな大分県には様々な日本一があります。特に、七島イの生産は全国で100%のシェアを誇っています。



温泉源泉総数
4,385孔 (28年度末)
温泉湧出量
281kl/分 (28年度末)



再生可能エネルギー
自給率
40.2% (29年度末)



県指定有形文化財
(建造物)
209件 (30.5.1)



道路トンネル数
578本 (29.4.1)



かぼす生産量
3,800t (29年)



乾しいたけ生産量
1,044t (29年)



七島イ生産量
8.3t (29年)



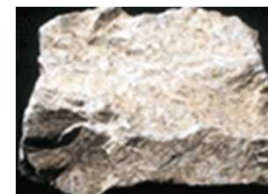
サフラン(花芯)生産量
15kg (29年)



マダケ竹材生産量
42千束 (29年)



ホオズキ出荷量
1,004千本 (28年)



石灰石生産量
26,529千t (29年度)

(7) 大分県の歴史

大分県は、古くは豊の国と呼ばれ、7世紀の終わり頃、豊前・豊後の二国に分けられました。

8世紀には宇佐八幡宮が全国4万社の八幡の総本宮として栄え、また、国東半島には「六郷満山」と呼ばれる独自の仏教文化が花開きました。

13世紀の初め(鎌倉時代)、豊後には大友氏が守護として入国し、以後約400年間統治が続きました。特に、大友宗麟の時代には、豊前を含め北部九州6か国を支配するまでとなりました。大友宗麟は、キリシタン大名としてキリスト教や西洋文化を積極的に取り入れました。府内(現在の太田市)、臼杵には中国船やポルトガル船が入り、「南蛮貿易」が盛んに行われ、国際都市として繁栄しました。

16世紀末、豊臣秀吉によって大友氏が除国されると、領国は極端に細分化されました。その後約300年間、小藩分立の時代が続き、県内各所に城下町文化が花開いたことにより、自主自立の気風を育み、個性豊かな人材を生み出しています。

明治になると、大幅な府県改廃が進められ、豊後国は大分県に、豊前国は小倉県になりました。

その後、県の統廃合が行われ、下毛・宇佐両郡が大分県に編入され、今日の大分県域となりました。

3世紀	宇佐邪馬台国説
720ごろ	「豊後国風土記」成る
731	宇佐八幡宮、官弊社となる 六郷満山文化、国東半島を中心に展開
1551	フランシスコ・ザビエル来訪
1871	廃藩置県により大分県誕生
1876	下毛、宇佐郡を大分県に編入し、現大分県域が確定
1962	県庁舎が現在の場所に建設される
2006	平成の大合併により18市町村となる

(8)大分県の偉人

(近世…安土桃山、江戸時代)

**大友 宗麟**

(戦国武将:1530~1587)

キリスト教を保護・推奨、西洋文化をいち早く取り入れ、ポルトガルと親交を結んだキリシタン大名

**黒田 官兵衛**

(戦国武将:1546~1604)

豊臣秀吉の側近として活躍し、天下統一を支えた天才軍師

**前野 良沢**

(中津藩医:1723~1803)

解剖書「ターヘル・アナトミア」を杉田玄白らと翻訳し、「解体新書」として出版

**田能村 竹田**

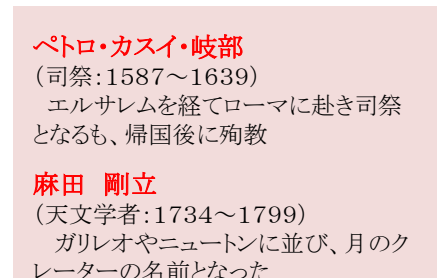
(南画家:1777~1835)

詩・書・画一体の独自の風雅の世界を確立し、代表作のいくつかは国の重要文化財に指定

**広瀬 淡窓**

(儒学者、教育者:1782~1856)

近世最大の私塾 咸宜園を創設し、門下三千有余の中から多方面に人材を輩出

**ペトロ・カスイ・岐部**

(司祭:1587~1639)

エルサレムを経てローマに赴き司祭となるも、帰国後に殉教

麻田 剛立

(天文学者:1734~1799)

ガリレオやニュートンに並び、月のクレーターの名前となった

大蔵 永常

(農学者:1768~1860)

九州各地をはじめ、大阪から東北にまで農業技術を学ぶ

(近代…明治以降)

**福沢 諭吉**

(啓蒙思想家:1835~1901)

慶應義塾の創設者であり、「学問のすゝめ」「西洋事情」などを執筆。一万円札の肖像としても有名

**滝 廉太郎**

(作曲家:1879~1903)

明治の中期、音楽界に彗星のように現れ、「荒城の月」「花」など不朽の名曲を残した。23歳で死去

**野上 弥生子**

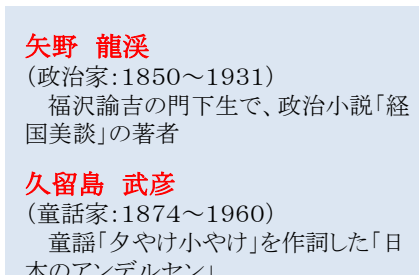
(小説家:1885~1985)

夏目漱石の指導を受けて小説を書き始め、「海神丸」「秀吉と利休」など多数の作品を発表

**双葉山 定次**

(大相撲力士:1912~1968)

前人未踏の69連勝を誇る第35代横綱。愛称は「不世出の横綱」「相撲の神様」「昭和の角聖」

**矢野 龍溪**

(政治家:1850~1931)

福沢諭吉の門下生で、政治小説「経国美談」の著者

久留島 武彦

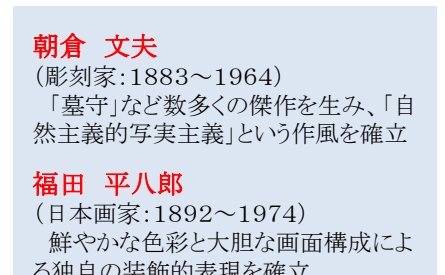
(童話家:1874~1960)

童謡「夕やけ小やけ」を作詞した「日本のアンデルセン」

堀 悌吉

(軍人:1883~1959)

平和と軍縮を希求した知性派海軍中将

**朝倉 文夫**

(彫刻家:1883~1964)

「墓守」など数多くの傑作を生み、「自然主義的写実主義」という作風を確立

福田 平八郎

(日本画家:1892~1974)

鮮やかな色彩と大胆な画面構成による独自の装飾的表現を確立

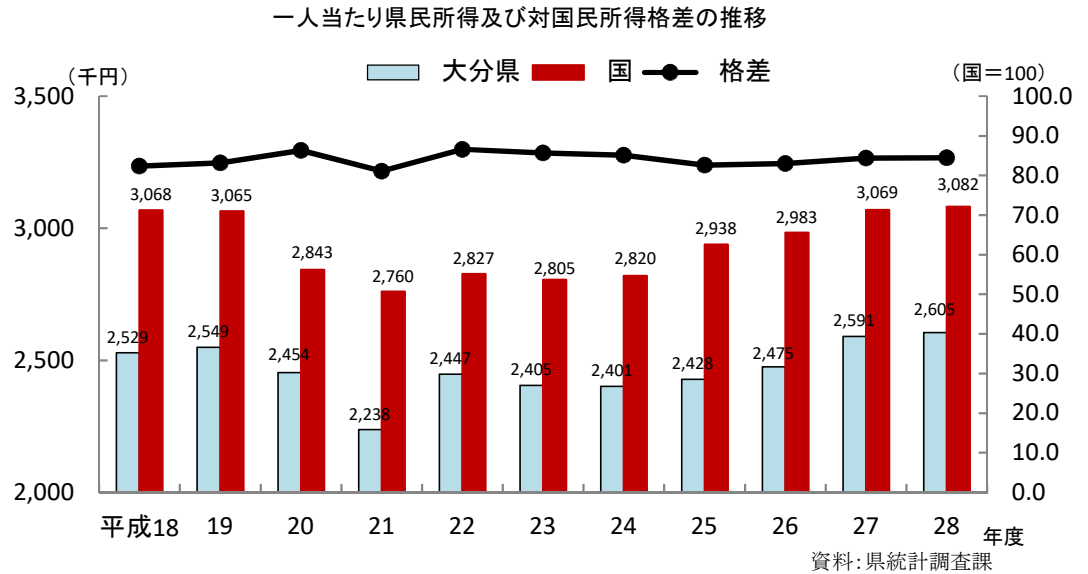
高山 辰雄

(日本画家:1912~2007)

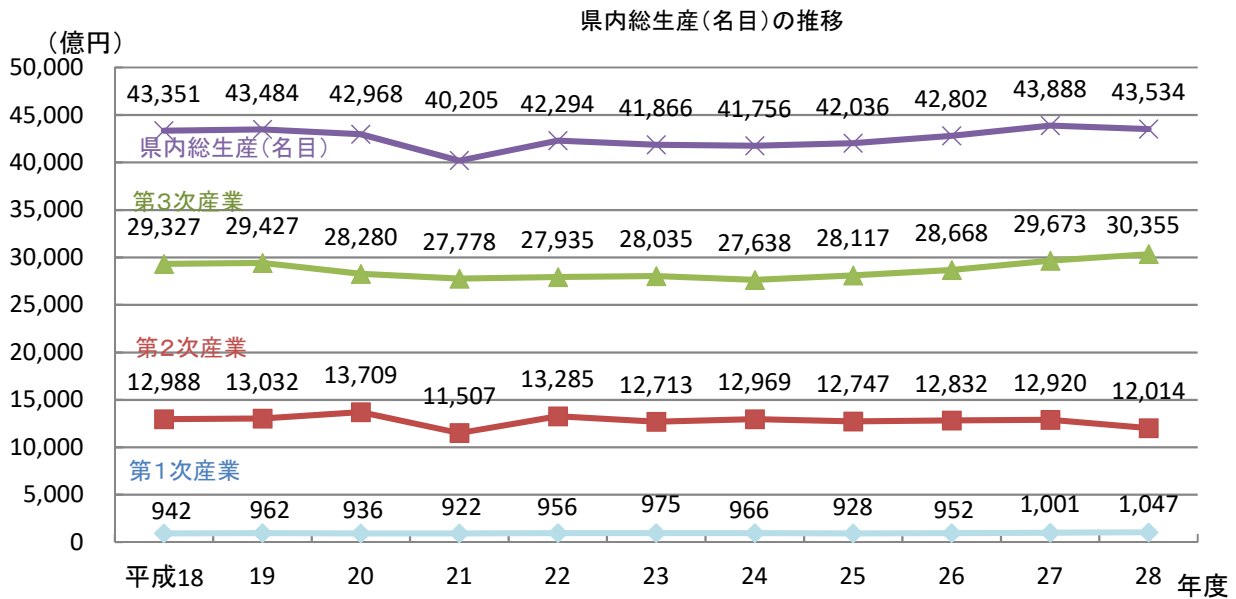
日本画と洋画の壁を取り除く独自の創作を展開

(1) 県民経済

平成28年度の一人当たり県民所得は2,605千円となっており、依然として国民所得とは1割程度の格差が生じています。



(2) 産業構造



平成28年度の県内総生産(名目)は約4兆4千億円となっており、近年は横ばい傾向です。

また、生産額及び就業者数は、いずれも第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順番となっています。



(3) 産業の状況

① 農林水産業

農業では、米のほか野菜(白ねぎ、トマト、いちご等)、果樹(なし、かぼす等)、花き(キク、スイートピー等)の園芸作物や肉用牛を中心とする畜産など、県内各地域の立地条件を活かして多様な展開がなされています。

林業では、日田市、佐伯市を中心とした、スギの木材生産や、豊後大野市や竹田市を中心とした乾しいたけ生産が盛んです。

水産業では、主に単価の高い中高級魚の養殖をはじめとした漁業が営まれています。

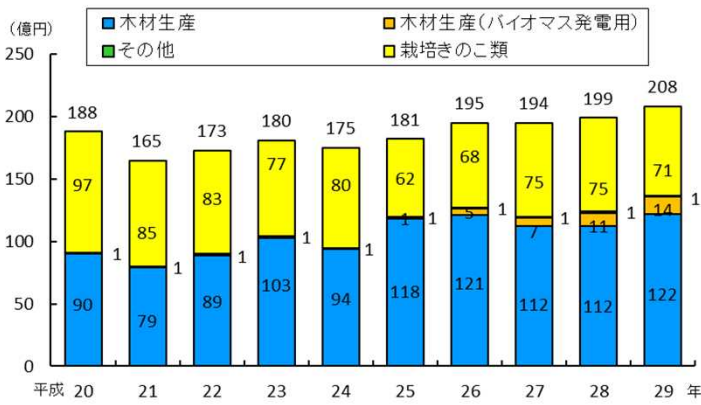
農業



資料: 農林水産省

林業

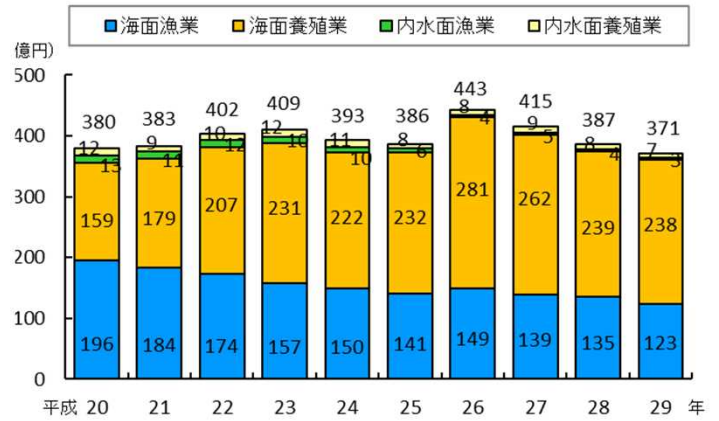
林業産出額の推移



資料: 農林水産省

水産業

水産業産出額の推移



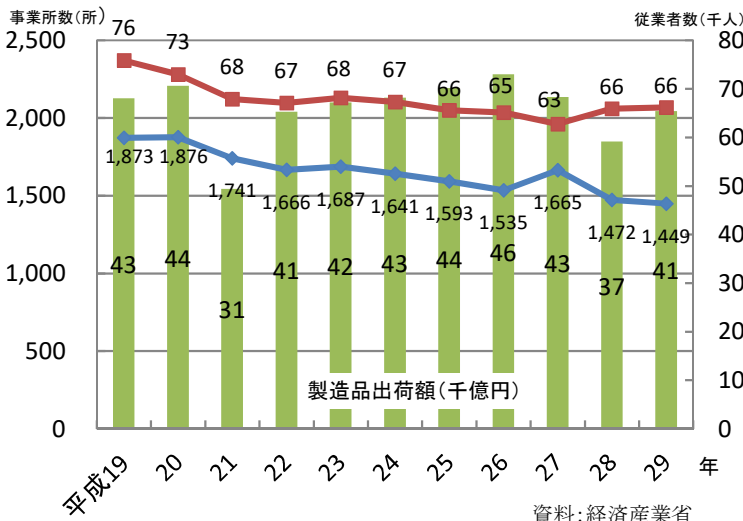
資料: 農林水産省、県水産振興課

② 商工業

大分県には、鉄鋼、石油、化学、半導体、機械、自動車、医療機器など幅広い産業がバランスよく立地しており、製造品出荷額(平成29年)は約4兆881億円となっています(九州第2位)。

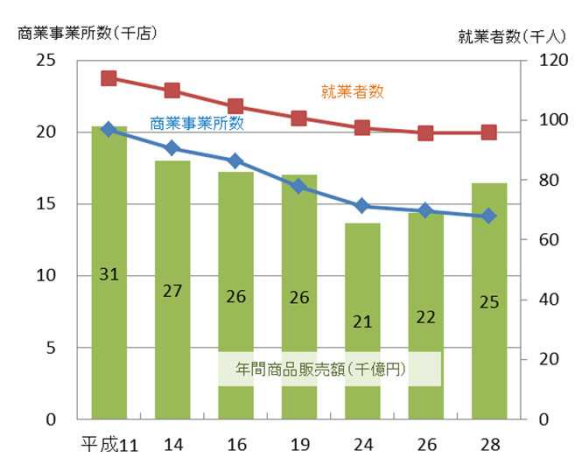
商業については、商業事業所数は減少が続いています。年間商品販売額(平成28年)は約2兆5千億円となっています。

製造品出荷額等の推移



資料: 経済産業省

年間商品販売額等の推移



資料: 経済産業省

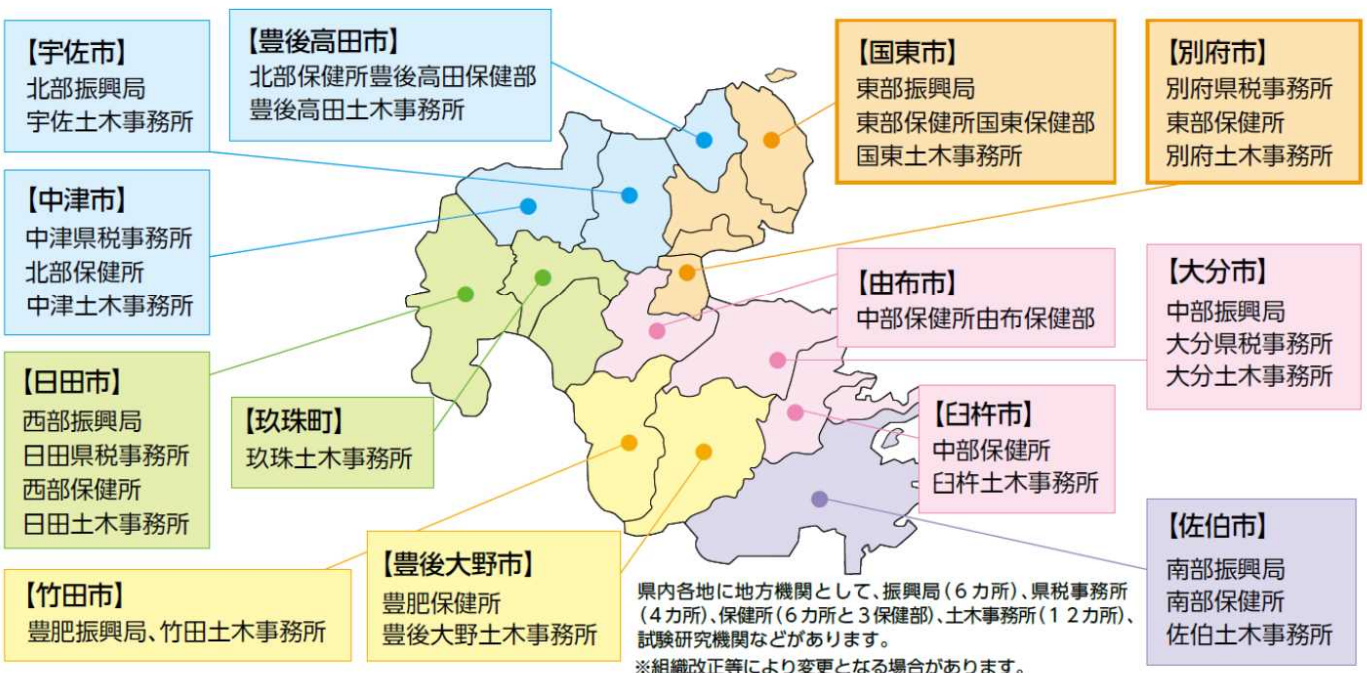
(1) 組織と業務



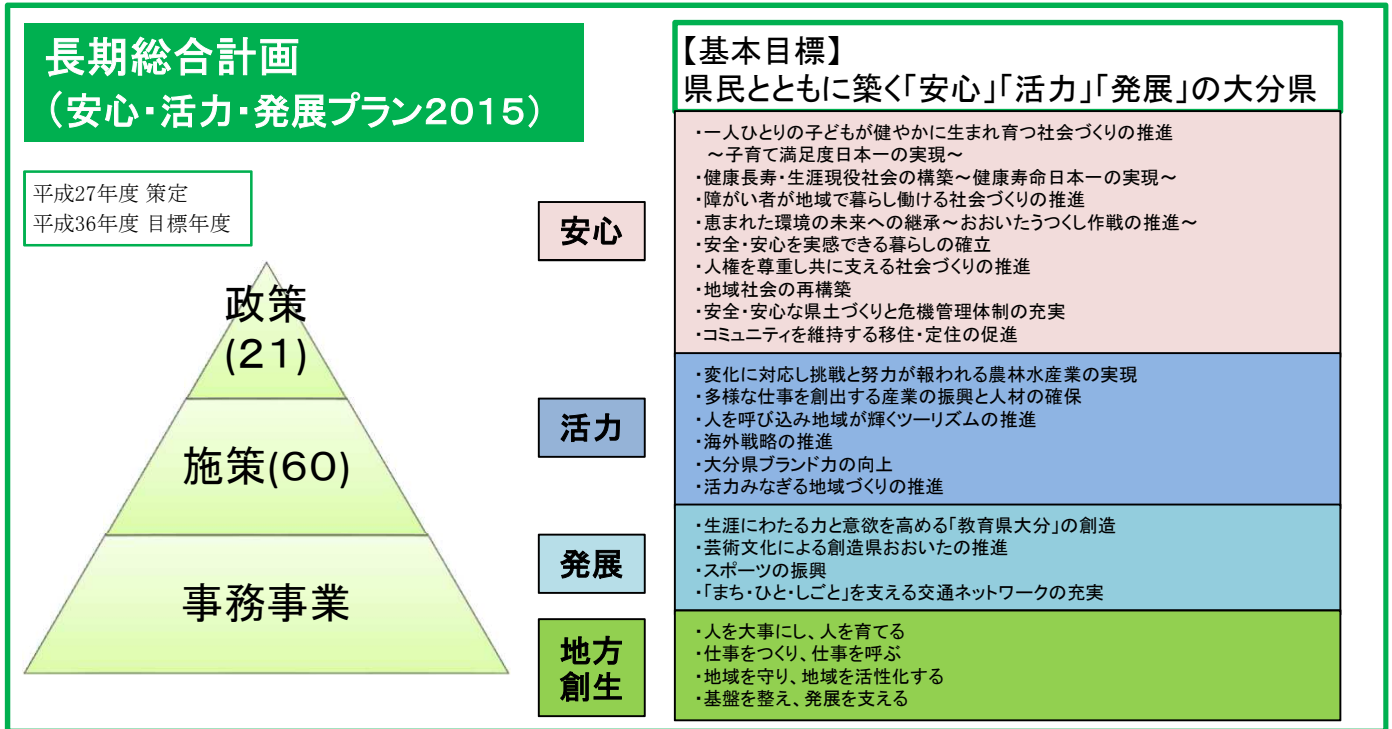
※注1 このほか、行政委員会として選挙管理委員会、海区漁業調整委員会、内水面漁場管理委員会、収用委員会があります。

※注2 組織改正等により変更となる場合があります。

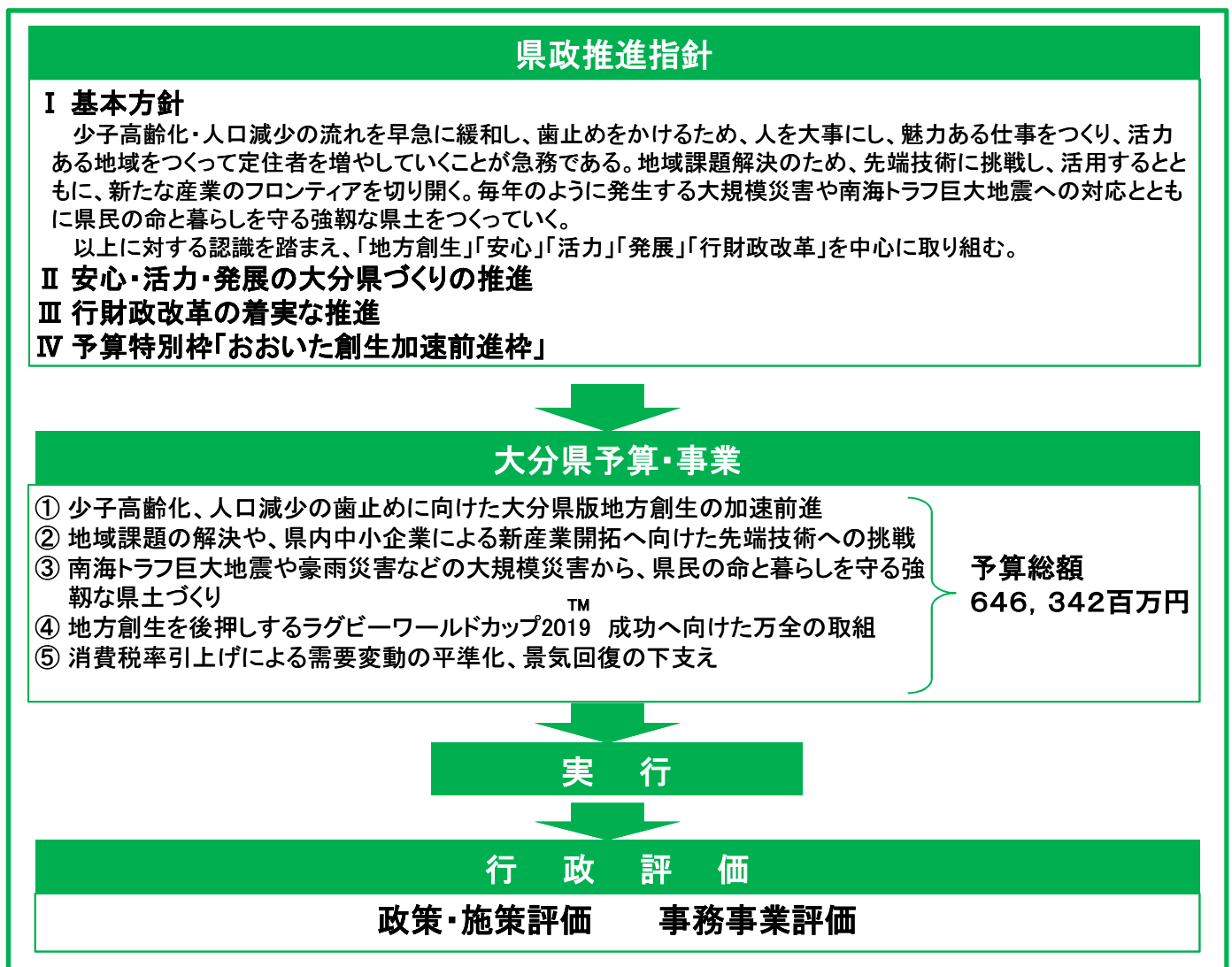
主な地方機関



(1) 中長期



(2) 単年度



(1)安心

**1 一人ひとりの子どもが健やかに生まれ育つ社会づくりの推進
～子育て満足度日本一の実現～**

子育てに係る経済的負担の軽減、地域の実情に応じた子育て支援の充実、男性の育児参画の推進など、社会全体で子育てを支える環境を整備するとともに、児童虐待の未然防止や子どもの貧困対策、障がいのある子どもと家族へのきめ細かな支援、出会いから結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援などにより、県民の子育ての希望を実現します。

- ・子育て満足度日本一の実現を目指します。



認定こども園の子どもたち

**2 健康長寿・生涯現役社会の構築
～健康寿命日本一の実現～**

県民参加型の健康づくりや健康を支える社会環境の整備、地域で安心して医療サービスを受けられる体制の充実・強化、さらには高齢者が子育て支援などの地域活動に参加することによる生きがいづくりのほか、地域包括ケアシステムの構築による安心して暮らせる基盤づくり、認知症施策の充実などにより、健康長寿の社会づくりを推進します。

- ・健康寿命日本一の実現を目指します。

総合型地域スポーツクラブによる
「健康づくり宣言」**3 障がい者が地域で暮らし働ける社会づくりの推進**

障がい者に対する理解の促進やグループホームなどの住まいの場の確保、芸術文化・スポーツを通じた社会参加の推進など、障がい者が身近な地域で安心して生活を送るための取り組みや、雇用の場の拡大、職場定着への支援、工賃向上のための共同受注・共同販売体制の確立などにより、障がい者が地域で心豊かに暮らし働ける社会づくりを推進します。

- ・障がい者雇用率日本一の実現を目指します。



就労支援施設で働く障がい者

4 恵まれた環境の未来への継承

～おおいたうつくし作戦の推進～

生物多様性や自然環境の保全などによる自然と共生する社会づくり、3Rの推進、豊かな水環境の創出などによる循環型の社会づくり、地球温暖化対策による低炭素社会づくりを推進するとともに、環境教育や地域活性化型の環境保全活動として「おおいたうつくし作戦」を推進することで、美しく快適な大分県を実現します。

- ・ 県民一斉おおいたうつくし大行動参加者数年間40万4千人を目指します。



ミヤマキリシマとくじゅう連山

5 安全・安心を実感できる暮らしの確立

県民をはじめ企業などと協働して犯罪や交通事故の抑止に取り組むほか、消費者の安心の確保、人と動物が共生する社会の実現、食の安全・安心の確保、健全な食生活と地域の食をはぐくむ食育の推進などにより、県民が安全に安心して暮らせる社会を実現します。

- ・ 刑法犯認知件数年間4,000件以下を目指します。



自主防犯パトロール隊との協働による児童の見守り活動

6 人権を尊重し共に支える社会づくりの推進

体系的・効果的な人権教育や啓発、人権問題に関する相談・支援・権利擁護など人権施策を総合的に推進するとともに、女性に対する暴力の予防や被害者支援体制の充実など、男女の平等と人権を尊重する環境づくりを進めます。

- ・ 人権問題専門研修受講者数2,000人を目指します。



ヒューマンフェスタ

7 地域社会の再構築

福祉関係団体や民間企業等の地域福祉活動の推進、地域を支える人づくり、基盤づくりによるつながりを実感する地域社会の実現などに取り組むとともに、集落が互いの機能を補い合うネットワーク・コミュニティを推進し、地域の賑わいの場づくり、生活交通の確保などにより、安全・安心な地域社会を構築します。

- ・ネットワーク化の希望を叶えた集落数1,500集落を目指します。



小規模集落応援隊による水路復旧活動

8 多様な県民活動の推進

NPO・ボランティアの育成・活動支援を行うとともに、NPO・企業・行政など多様な主体が地域課題に協働して取り組む支え合いの仕組みづくりや、協働に対する県民理解・参加を促進します。

- ・県・市町村との協働件数年間1,192件を目指します。



NPOと協働して海岸清掃を行うボランティア

9 安全・安心な県土づくりと危機管理体制の充実

自主防災組織の活性化、防災教育・訓練の充実、救助・救援体制の確保など、自助・共助・公助の取り組みや、防災・減災対策、老朽化対策などの社会資本整備を進めるとともに、新型インフルエンザ等の感染症や家畜伝染病の発生・まん延の防止を徹底します。

- ・自主防災組織避難訓練等実施率90%(津波浸水想定区域100%)を目指します。



大分西部地区総合防災訓練
(埋没車両搜索訓練)

10 コミュニティを維持する移住・定住の促進

地域の居住環境や魅力の情報発信を強化するとともに、移住の受け皿となる仕事づくり、移住後の定着に向けた移住者へのフォローアップ、大学生等若者の県内定着やU I Jターンの促進に取り組み、地域活力の向上を図ります。

- ・移住施策を活用した移住者数年間1,500人を目指します。



東京で行われた移住相談会

(2) 活力

1 変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業の実現

農林水産業の成長産業化に向け、規模拡大や協業化による先駆的な経営体の育成や就農学校の整備などによる新たな担い手の確保・育成、戦略的な輸出の拡大、食品産業と連携した加工・業務用向けの産地づくりなどにより構造改革をさらに進め、生産者の挑戦と努力が報われる農林水産業を実現します。

- ・農林水産業による創出額年間2,500億円を目指します。



大規模な園芸施設（トマト）

2 多様な仕事を創出する産業の振興と人材の確保

地域の強みを生かす産業集積と戦略的な企業立地の推進、創業支援の強化やサービス産業の生産性向上支援、クリエイティブ産業への挑戦を通じたイノベーション促進等による魅力ある仕事の場づくりに加え、産業の発展を支える優秀な人材を確保し、多様な担い手がそれぞれの就業ニーズに応じて活躍できる社会を目指します。

- ・創業支援件数年間500件を目指します。



おおいたスタートアップセンターにおける創業相談

3 男女が共に支える社会づくりの推進

固定的な性別役割分担意識を解消し、働く場をはじめあらゆる分野での女性の活躍を推進するとともに、男女が性別に関わりなく社会の対等な構成員として、その個性と能力を発揮し、共に多様な生き方や働き方を実現できる男女共同参画社会づくりを進めます。

- ・女性が輝くおおいた推進会議の女性活躍宣言企業数200社を目指します。



女性が輝くおおいた推進会議発足式

4 人を呼び込み地域が輝くツーリズムの推進

「おんせん県おおいた」の強みを生かした情報発信や団体誘客の促進等による国内誘客と、ラグビーワールドカップ2019などを契機とした海外への情報発信や観光案内の多言語対応などによる海外誘客（インバウンド）を強化するとともに、観光人材の育成・確保や地域ブランドイメージの確立につながる地域磨きを推進し、観光による活力ある大分県づくりを目指します。

- ・ 県内宿泊客数年間730万人を目指します。



地獄蒸し料理を楽しむ外国人観光客

5 海外戦略の推進

海外の活力や人材を取り込み、ものづくり産業や農林水産物・加工品、観光など、分野別にターゲットとなる国・地域を定めた海外戦略を展開するとともに、海外展開の基盤となるネットワーク強化や、留学生など外国人材の活用、芸術文化・スポーツなど様々な分野における国際交流の促進により、海外に開かれた飛躍する大分県を実現します。

- ・ 海外展開企業数150事業者を目指します。



香港で開催された「大分フェア」

6 大分県ブランド力の向上

「おんせん県おおいた」の統一イメージの浸透や、世界農業遺産など世界ブランドの活用、政策と広報の連携強化やターゲットの明確化などによる広報の最適化、世界的スポーツイベントや海外ネットワークを活用した海外広報の強化によりブランド力を向上させ、地域活力の向上につなげます。

- ・ 地域ブランド調査全国12位を目指します。



地域の魅力を伝えるPR活動

7 活力みなぎる地域づくりの推進

地域資源や歴史・文化、地理、地質などの地域の特徴を活用した新たな取り組みや、芸術文化の創造性を生かした地域づくりを支援するとともに、地域づくり人材の育成、空き家等の利活用などにより、地域の元気を創造します。

- ・ 地域活力づくり取り組み件数1,670件を目指します。



地域のボランティアガイドによる世界農業遺産めぐり

(特徴ある地域づくり)

県内各地域で、地域資源を活用し特徴を生かした産業振興や仕事づくりに取り組みます。



東部地域

(別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町)

- 時代の変化に対応する農林水産業の創出
- 「おんせん県おおいた」と「豊の国千年ロマン観光圏」の推進
- 文化・伝統、アート、スポーツによる地域の活力向上
- 誘致企業へのフォローアップと地域の特性を生かした企業の誘致



国東半島峯道ロングトレイル

中部地域

(大分市、臼杵市、津久見市、由布市)

- 芸術文化の創造性を生かした魅力あるまちづくりの実現
- 地域特性を生かした観光振興による交流人口の増加
- 地域の特徴を生かした力強い経営体の育成と地域ブランドの確立
- 特色ある地場産業を担う人材育成



子どもたちに人気の観光施設

南部地域

(佐伯市)

- 全国トップレベルの養殖業の経営強化など、安定した雇用の場の確保
- 全国に先駆けた「佐伯型循環施業」による木材安定供給の推進
- 温暖な気候を生かした、よりもうかる農業生産体制の確立
- 東九州自動車道を生かした食観光の促進
- 九州一広い街・浦・里の安心・安全で活力ある地域づくり



かぼすブリ

豊肥地域

(竹田市、豊後大野市)

- 競争に打ち勝つ農業経営体の育成と新たな担い手の確保
- 豊かな地域資源を生かした新たな誘客促進
- 高原や温泉を活用した産業の振興
- 郷土芸能や特産品など地域の特徴を生かした地域づくりの推進



雄大な久住高原

西部地域

(日田市、九重町、玖珠町)

- 地域経済を支える林業・木材産業の振興
- 飼養環境に恵まれた畜産の振興
- 地域の強みを生かした農業の振興
- 県境を生かした交流の促進による観光の振興
- 水と緑にあふれる豊かな地域の再生



三隈川の屋形船

北部地域

(中津市、豊後高田市、宇佐市)

- 地域の特性を最大限に生かした第一次産業の振興と6次産業化の推進
- 集積する自動車関連企業のさらなる競争力強化に向けた支援
- 地域固有の旅体験で人を呼び込む観光の振興
- 地域コミュニティの活性化に向けた取り組みの支援



体験型観光イベント

(3) 発展

1 生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造

未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育の推進や、世界に通用する「グローバル人材」の育成、いじめ・不登校対策の充実・強化、学校・家庭・地域との協働など学校教育の充実と生涯を通じた学びを支援するとともに、青少年の健全育成や多様な行政課題の解決に向けた県内大学との連携などを進めます。

- ・ 全国に誇れる教育水準の達成を目指します。



ICT を活用した授業

2 芸術文化による創造県おおいたの推進

多彩な芸術文化に親しむ機会の充実、芸術文化の魅力発信強化、芸術文化ゾーンを核としたネットワークの構築などに取り組みとともに、地域の人々の誇りや絆、文化的アイデンティティの礎となる文化財・伝統文化の保存・活用・継承を進めることで、人々の生活を豊かにし、創造的で活力あふれる地域社会を構築します。

- ・ 県立美術館入場者数年間50万人を目指します。



大分県立美術館 (OPAM)

3 スポーツの振興

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進により健康で活力に満ちた長寿社会を実現するとともに、ジュニア期からの一貫指導体制の確立や競技力を支える人材の養成等による世界に羽ばたく選手の育成、ラグビーワールドカップ2019の成功に向けた取り組みや国際スポーツ大会の誘致など、スポーツによる地域の元気づくりを進めます。

- ・ 国際大会出場者数年間45人を目指します。



2015年アスタナ世界柔道選手権大会
女子78キロ級で優勝した梅木真美選手

4 「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実

高速バス、フェリー、航空機などの広域公共交通ネットワークの充実、フェリーターミナルや港湾の機能強化など、九州の東の玄関口として人や物の流れの拠点化を推進するとともに、広域道路交通網整備や東九州新幹線の整備計画路線格上げの取り組み強化、産業や生活を支える道づくり、快適な都市空間の形成などを進め、まち・ひと・しごと創生を支える基盤を整備します。

- ・ 広域公共交通輸送人員年間1,078万人を目指します。



物流の拠点 大分港大分地区

(4) 地方創生

1 人を大事にし、人を育てる

子どもを生み育てやすい環境づくりや健康長寿の社会づくりなど、自然増のための環境を整えます。また、高齢者や障がい者、女性など多様な人材の活躍を促進するとともに、大分県の将来の担い手となる子どもの教育の充実を図ります。

- ・若い世代の結婚・子育ての希望の実現を目指します。



放課後児童クラブで過ごす子どもたち

2 仕事をつくり、仕事を呼ぶ

地域密着の産業である農林水産業や商工業、観光・ツーリズムなど、様々な分野に魅力ある仕事の場を創出します。

- ・魅力ある仕事づくりによる新たな雇用創出数9,700人を目指します。



就農学校の設立

3 地域を守り、地域を活性化させる

人口減少の中で、住み慣れた地域に住み続けたいという住民の思いを叶える地域づくりを進めるとともに、特徴ある地域資源を生かした取り組みやU I Jターン促進などにより地域活性化を図ります。

- ・人口の社会増について、国立社会保障・人口問題研究所推計と比較して年間1,000人の上乗せを目指します。



小規模集落応援隊が参加した地域の伝統行事

4 基盤を整え、発展を支える

広域交通網の整備など地域間競争の基盤整備を進めるとともに、防災など地域の安全性・強靭性を高めます。

- ・大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域の割合78%を目指します。



日田に向かって整備が進む中津日田道路

6. 大分県行財政改革アクションプラン

県は、平成16年に「行財政改革プラン」、21年に「中期行財政運営ビジョン」、24年に「行財政高度化指針」を策定し、聖域なき行財政改革に取り組んできました。その結果、「行財政高度化指針」最終年となる平成27年度末の財政調整用基金残高は、目標額を上回り、県債残高も3年連続で減少するなど、一定の成果を上げてきました。

しかしながら、少子高齢化・人口減少社会の到来など様々な課題があり、今後の行財政運営は一層厳しさが増すものと懸念されています。

そのため、県では平成27年10月に「大分県行財政改革アクションプラン」を策定し、大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」を支える行財政基盤の強化を基本目標として、「選択と集中の推進」、「原点に立ち返った見直し」、「地道な取組の実行」の3つの視点から、具体的な取組項目・時期を明示し、見直しを持って計画的に取り組んでいます。

計画期間 平成27年度～31年度までの5年間(プラン2015と連動)

行財政改革アクションプランの体系

県民

「夢と希望あふれる大分県」の実現



「安心・活力・発展プラン2015」に掲げる政策の実現

「安心・活力・発展プラン2015」を支える行財政基盤の強化
(「選択と集中の推進」、「原点に立ち返った見直し」、「地道な取組の実行」)

歳入の確保

- ◆ 県税収入のさらなる確保
- ◆ 税外未収債権の管理強化
- ◆ 基金の見直し
- ◆ 有利な財源の確保

歳出の見直し

- ◆ 事務事業の見直し
- ◆ 総人件費の抑制
- ◆ 社会保障関係費の適正化
- ◆ 公債費等の抑制
- ◆ 公営企業の健全経営・あり方の見直し
- ◆ 危機に対応できる機動的な財政運営

資産マネジメントの強化

- ◆ 県有財産の利活用推進
- ◆ 公共施設等の総合的な管理
- ◆ 公の施設等の見直し

組織の見直し・
人材の育成活用

- ◆ 組織・機構の見直し
- ◆ 公社等外郭団体等の見直し
- ◆ 人材の育成と活用
- ◆ 職員の意識改革と業務の効率化

多様な主体との
連携・協働の推進

- ◆ NPO等民間との協働の推進
- ◆ 市町村との連携
- ◆ 県を超えた広域連携

県庁

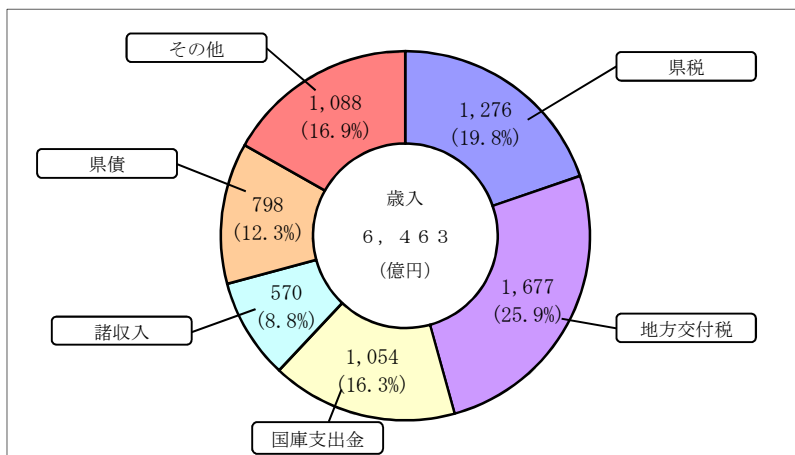
～大分県版の地方創生を加速前進させる積極予算～

今年度は統一地方選挙の関係から、骨格予算と肉付予算の2段階の編成となりました。今回、大分県版地方創生の加速前進に加え、先端技術への挑戦、災害に強い強靱な県土づくりの3点に対応した施策を意欲的に投入した結果、骨格予算と肉付予算を合わせた予算総額は6年連続のプラスとなる積極予算となりました。第一の課題は、「大分県版地方創生の加速前進」です。全国的な少子高齢化、人口減少の大波は深刻で、今のうちにあらゆる手を打って、これに歯止めをかけなければなりません。このため、人を大事にし、人を育てる取組を強化し、「子育て満足度」「健康寿命」「障がい者雇用率」の3つの日本一を目指します。また、仕事づくりも大切です。農林水産業の構造改革、魅力アップを加速させるほか、中小企業・小規模事業者の振興、創業・起業の支援強化を行うとともに、企業誘致の促進にも一層取り組みます。地域の元気づくりも重要です。集落の機能を広域で補い合うネットワーク・コミュニティの取組を強化します。そしてこの秋、いよいよラグビーワールドカップが開催されます。大分らしい大会を開催し、世界中の人々を呼び込み、大分の活力につなげるなど、観光や芸術文化、スポーツなどを活用して地域の活性化を図ります。

第二の課題は、「先端技術への挑戦」です。IoTや人工知能などの先端技術は、劇的な速さで発展しており、世の中のありようまで変えようとしています。こうした技術を生活の利便性向上や地域課題の解決、さらには新たな産業の育成に活用し、大分県版第4次産業革命「OITA4.0」を果敢に推進します。

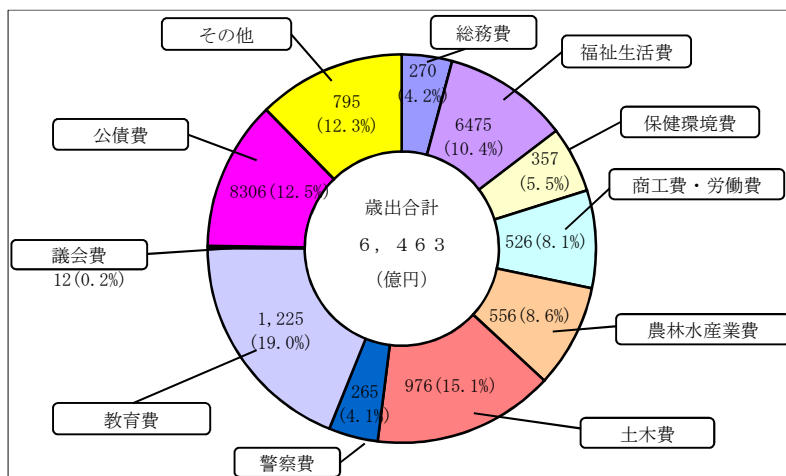
第三の課題は、「強靱な県土づくり」です。頻発・激甚化する自然災害や心配される南海トラフ地震・津波への備えとして、県民の生命や財産を守る防災・減災対策は一刻の猶予も許されません。将来にわたって安心して暮らすことのできる大分県づくりを着実に進めるため、機を逸することなく、ハード・ソフト両面で強力に取組を推進していきます。

これら3つの課題に取り組んでいくために、これまでも進めてきた「安心・活力・発展の大分県づくり」にさらに力を注いでまいります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



県税	県民税、自動車税、事業税などの税金
地方交付税	国から交付される使途を決められていない財源
国庫支出金	国から交付される使途の決められた財源
諸収入	貸付事業の償還金、宝くじ収入など
県債	道路や公共施設等を作るための借金
その他	特別会計や基金からの繰入金など

平成31年度一般会計予算 6,463億円
(前年度比 4.8%増)



総務費	政策や計画を立案したり、地域活性化のための事業等の経費
福祉生活費	子育て支援や高齢者、障がい者福祉のための経費
保健環境費	健康増進や食の安全・安心、環境保全のための経費
商工費・労働費	企業の活動を促進したり、求職者の支援等をする経費
農林水産業費	農業、林業、水産業の振興を図るための経費
土木費	道路や橋、河川、下水道等を建設したり、修繕したりするための経費
警察費	犯罪や交通事故を防ぎ、県民の安全・安心を守るための経費
教育費	学校を建設したり、文化やスポーツを振興するための経費
議会費	県議会を運営する経費
公債費	県債を償還する経費
その他	災害復旧費など

(1) 健やかで心豊かに暮らせる安心の大分県

【防災力・防災機能の強化】

- ・災害時の情報提供を充実するため、防災モニター（防災士など）からの災害情報を防災情報アプリ等で収集・発信します。
 - ・被災状況を疑似体験できるVR技術を用いた防災啓発映像を新たに製作し、自主防災組織の防災訓練など地域での防災教育を強化します。
 - ・頻発・激甚化する自然災害に対応するため、国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」等を積極的に活用し、河川の浸水対策やため池の耐震化、災害時の利用者の安全を確保する道路ネットワークの防災対策等を行います。
- 新たに創設された緊急自然災害防止対策事業では、県単独での河川の浸水対策や急傾斜地の法面対策、ため池の浚渫等のきめ細かな防災対策を実施します。
- ・台風や豪雨等による大規模災害発生時に、より機動的に対応するため、九州北部豪雨など過去の災害対応から必要と見込まれる国の災害復旧事業以外の経費を予め確保します。

【子育て満足度日本一の実現】

- ・本年10月から実施される幼児教育無償化に合わせ、保育を必要とする世帯の経済的負担の一層の軽減を図るため、3歳未満児の第2子の保育料を半額免除から全額免除に拡充します。
- ・子育てと仕事の両立を推進し、希望する子どもの数の実現を後押しするため、育児短時間勤務を適用した事業主に対する奨励金制度等を創設します。
- ・保育人材の確保と職場定着を図るため、保育現場の働き方改革を推進する取組を支援するとともに、保育士をサポートする保育補助者の配置に要する経費に対する助成等を実施します。
- ・放課後の子どもに安全で健やかな生活の場を提供するため、放課後児童支援員等を複数配置する小規模クラブに対し新たに助成するなど、待機児童の解消に向けた取組を支援します。

【健康寿命日本一の実現】

- ・健康寿命を延伸させるため、健康づくりに対する県民意識の醸成に向けて「まず野菜、もっと野菜」プロジェクトの推進や健康アプリ「おおいた歩得」の機能を拡充して温泉の入浴効果を収集・発信します。
- ・元気な高齢者の社会参加を促進することにより健康寿命の延伸を図るため、高齢者が過半数を占める団体が地域で行う健康寿命延伸や生きがいづくり等に資する活動を支援します。
- ・介護従事者の負担を軽減し離職防止を図るため、ICT化やノーリフティングケア（抱え上げない介護）等により働きやすい職場環境の整備を行う事業所を支援します。

【障がい者雇用率日本一の実現】

- ・障がい者雇用を促進するため、障がい者雇用アドバイザーによる就労促進や就労継続支援A型事業所の規模拡大に対し助成等するほか、在宅の障がい者や難病患者が、ICTの活用等により在宅で就労できる支援体制を構築します。
- ・障がいのある特別支援学校生徒の一般就労を促進するため、教育庁内にワークセンターを設置し、卒業生を一定期間雇用し、労働習慣や必要なキャリアの習得を支援します。

【自然との共生に向けた取組】

- ・「おんせん県おおいた」の重要な資源である温泉の保全を図るため、温泉資源衰退化の兆候が見られる別府市において、市と共同して温泉資源量調査を実施します。
- ・本年11月に姫島村及び豊後大野市等で開催される第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会を通じ、ジオパークの魅力を県内外に発信する取組等を支援します。

【安全・安心を実感できる暮らしの確立】

- ・交通事故総量を抑止するため、横断歩道付近の運転マナー等に重点化した交通安全広報・教育を通じて県民全体の交通安全意識の高揚に向けた取組を強化します。
- ・食の安全・安心を一層確保するため、HACCPの導入・定着に取り組む食品取扱事業者を支援します。

【移住・定住の促進】

- ・県内中小企業の人材確保と県内外の求職者の県内就職・定着を図るため、インターシップの受入体制整備や就職マッチングサイトの開設等を行います。
- ・福岡市中心部に県内企業の情報発信や就職相談等を行う拠点を設置し、福岡在住の若年者のUIターンを促進します。
- ・エリアごとにターゲットを定め、それぞれの特徴に応じた取組を強化するとともに、県外からの移住者に対する支援を拡充します。（家賃補助の新設、中小企業に就業又は起業した場合の支援額の上乗せ）



おおいた防災アプリの運用開始



認定こども園



ノーリフティングケア（抱え上げない介護）



「おおいた姫島・おおいた豊後大野ジオパーク 教育交流事業」



安全運転サポート車の普及啓発



移住相談会

(2)いきいきと働き地域が輝く活力あふれる大分県

【変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業の実現】

- ・水田農業の構造改革を加速するため、米・麦・大豆主体の中規模経営体の露地野菜への転換等を支援し、水田の畑地化を促進します。
- ・県内牛市場の活性化による生産者所得の向上を図るため、県外高能力牛を活用した新たな県産種雄牛の造成に取り組むとともに、ゲノム育種価を活用した高能力繁殖雌牛の育成を支援します。
- ・乾しいたけの消費拡大を図るため、生産者と流通事業者等が一体となって行う、ブランド力向上や新たな消費者層の獲得に向けた取組を支援します。
- ・県産水産物の流通拡大を図るため、生産者団体が都市圏の市場等で行うかぼすブリや豊後別府湾ちりめん等を核とした販促活動を支援します。
- ・ドローンを活用した生育診断技術の開発や造林資材運搬の省力化、ICT機器を活用した養殖ブリの出荷サイズの均一化等スマート農林水産業に取り組みます。



水田畑地化による園芸品目の導入

【多様な仕事を創出する産業の振興と人材の確保】

- ・成長志向の高い起業家の育成等を図るため、関東圏での本県関係者等による起業家ネットワークの形成や都内コワーキングスペースを設置するほか、地域課題解決型起業支援補助金を創設します。
- ・県内小規模事業者等の事業承継、承継後の持続・成長を促進するため、後継者の掘り起こしや育成、創業希望者と企業とのマッチング等を行います。
- ・遠隔操作ロボット「アバター」による新産業の創造や県内の課題解決を図るため、体験型観光や人手不足対策等の分野における有効性の実証を行うとともに、「アバター」を活用した教育活動を展開します。
- ・ドローン産業のさらなる振興を図るため、地域課題の解決に向けたドローン技術の実用化に取り組むとともに、九州連携による見本市を開催します。
- ・高齢者の増加等により県内各地域が抱える移動手段の課題を解決するため、AI技術等を活用した次世代モビリティサービスの効果的な導入に向けた検討及び実証を行います。
- ・県内企業の外国人労働者受入れを促進するため、本年4月にスタートした新たな在留資格(特定技能)の対象である14業種の県内企業に対して、ニーズ調査等を実施するとともに、特に不足が見込まれる介護人材を確保するため、海外の人材養成機関や県内関係機関と連携して外国人介護人材の受入体制を整備します。



葵白清

ゲノム育種価を活用した種雄牛「葵白清」



「アバター」による
トリニータ選手とファンとの交流

【男女が共に支える社会づくりの推進】

- ・働く意欲のある女性に対して在宅ワークに関する支援や就業体験等を実施するほか、働く女性のキャリア形成につながるセミナーを開催します。
- ・女性が農者を確保するため、県内各地で活躍する女性農業者の情報発信や就農に関心を持つ女性向けセミナー等を開催するとともに、女性が働きやすい環境づくりに取り組む経営体を支援します。



ドローン定期配送実証実験

【人を呼び込み地域が輝くツーリズムの推進】

- ・ラグビーワールドカップ大分開催を契機として、欧米・大洋州等からの観光誘客を図るため、本県で試合を行う国へのプロモーションに加え、情報発信、誘客対策及び受入態勢整備を行うとともに、大会後のレガシーを活用し、欧米・大洋州等をターゲットとした取組を行います。
- ・インバウンド等による訪日外国人消費を確実に取り込むため、観光関連産業の夜間営業拡大に対応した公共交通機関及び観光案内サービス確保のほか、宿泊施設が行う受入れ環境整備等を支援します。
- ・訪日外国人消費を確実に取り込むとともに、県民の利便性向上及び県内の中小企業・小規模事業者の生産性向上を図るため、キャッシュレス化に向けた取組を実施します。
- ・食の魅力により県外からの観光需要を獲得するため、誘客力のある食資源の情報発信を強化するとともに、食の魅力向上に向けた調査・分析を行います。



湯けむりスタートアップサミット2019

(3)人を育み基盤を整え発展する大分県

【生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造】

- ・幼児教育施設における幼児教育の質の向上を図るため、大分県幼児教育センターを設置し、幼児教育研修の支援や幼小接続に関する研修等を行います。
- ・国の支援後も授業料負担の残る私立高校生の保護者の経済的負担を軽減するため、授業料減免補助の対象世帯を拡充します。
- ・生徒の情報活用能力を育成するため、県立学校にICT教育環境を整備します。
- ・国東高校に県内唯一の最先端技術を学ぶ土木系学科を新設することに伴い、寄宿舎を整備します。
- ・第3次特別支援教育推進計画に基づき、聾学校の移転や高等特別支援学校の新設にかかる実施設計を行います。



「しんけん遊ぶ子」の育成
(大分県幼児教育センター設置)

【芸術文化による創造県おおいたの推進】

- ・国民文化祭等の開催を契機に県内各地で取り組む特徴的な芸術文化活動に対する支援等を行います。
- ・全国障害者芸術・文化祭の開催を契機とした障がい者の芸術文化活動を継続・発展させるため、おおいた障害者芸術文化支援センター(仮称)を設置します。



国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭
閉会式

【スポーツの振興】

- ・ラグビーワールドカップ大分開催の成功に向け、機運醸成はもとより会場整備(ハイブリッド芝への張替等)を進めるとともに、観戦客の円滑な輸送やファンゾーンの企画・運営等に万全を期します。



ラグビーで大分を一つに!
「One Rugby, One Oita フェスティバル
～TRY in Oita～」

【「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実等】

- ・九州の東の玄関口にふさわしい港湾施設の整備による人流・物流拠点の強化に向けた調査・検討を行います。
- ・大分空港への海上アクセスの実現可能性を調査するとともに、大分スポーツ公園へのアクセスなど、県都大分市の交通円滑化に関する検討を行います。



別府港(石垣地区)

9. 大分県管内図、県のシンボル



<県木 豊後梅>



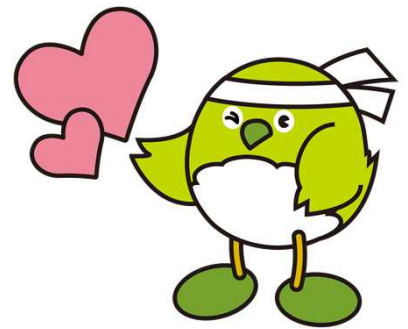
【昭和41年8月16日制定】
 豊後梅は、古くから豊後の名産として知られていました。花は大輪で淡紅色をおびています。

<県鳥 メジロ>

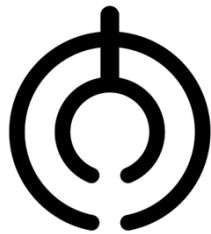


【昭和41年2月1日制定】
 メジロは全国的に生息している鳥ですが、大分県のメジロは、色彩が美しく、よく鳴くことから、古くから豊後メジロとして全国的に有名で、県民に愛されています。

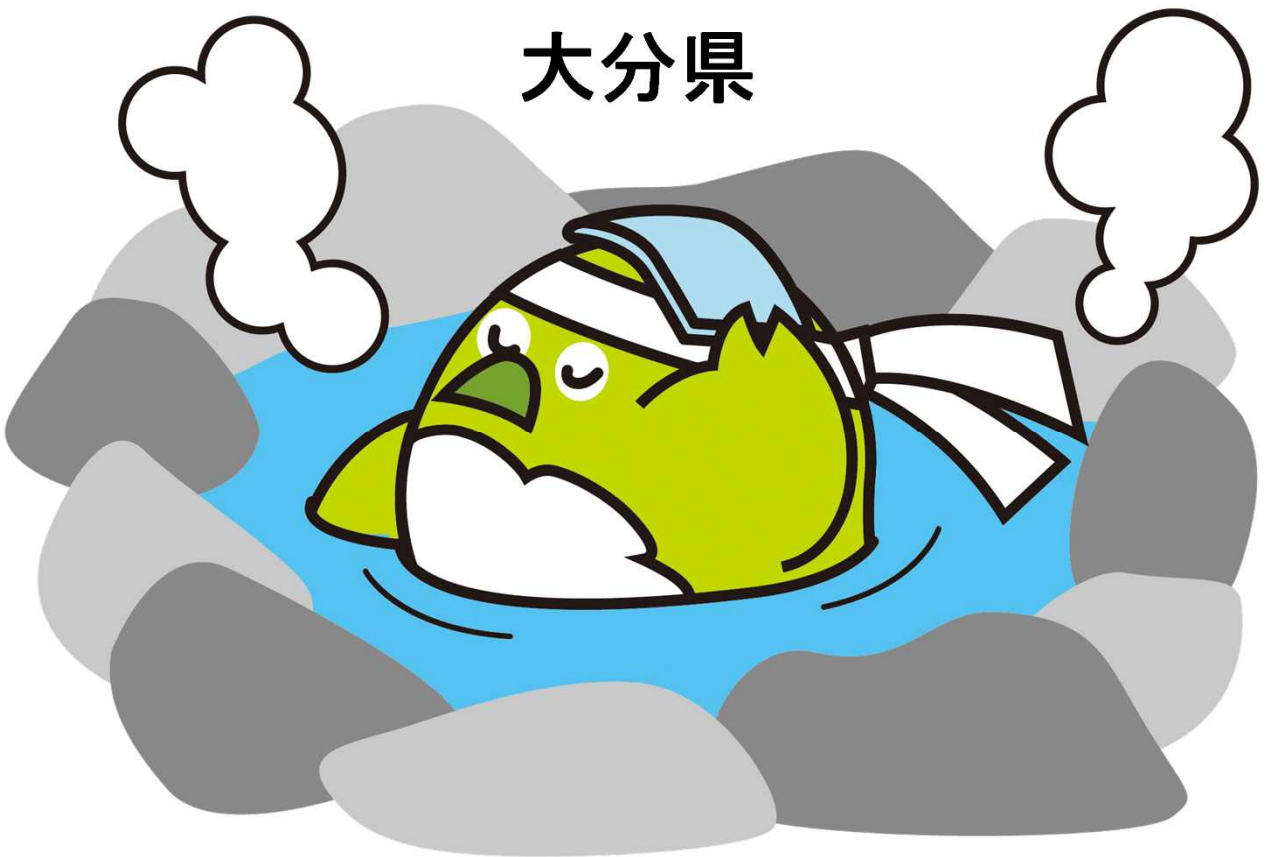
<大分県応援団”鳥”めじろん>



【平成16年12月24日誕生】
 第63回国民体育大会のマスコットキャラクターとして生まれ、現在も大分県の応援団”鳥”として世界で活躍しています。
 身長:乾いたけ 20.08個分
 体重:カボス 200.8個分



大分県



大分県企画振興部政策企画課

TEL:097-506-2031

FAX:097-506-1722

〒870-8501

大分県大分市大手町3-1-1

令和元年8月作成